

「お金」のもたらす学習効果

— お金に対する多様な見方や考え方ができる 社会科授業の開発と実践 —

池 田 恭 浩

はじめに

「お金」が人とのやサービスを媒介すると考えるならば、「お金」をメディアとして捉えることができる。しかし、「お金」にはこの他にも様々な捉え方があり、私たちにとって身近なものであるにもかかわらず、その正体ははっきりとしない。従って、社会科教育でも「お金」をどのように採り入れるかは曖昧なままである。前回の研究では、『「お金」のもたらす学習効果—「お金の役割」を採り入れた小学校社会科—』（平成23年度京都教育大学大学院教科教育専攻社会科教育専修における修士論文）において、貨幣の三つの機能である「交換・決済機能」「価値尺度機能」「価値保蔵機能」を採り入れた授業の開発と実践をおこなった。小学校の社会科だけでは、貨幣の三つの機能を採り入れることによって知的に面白い授業実践をすることができたが、中学校以降の社会科やそれに関連する授業、現実の社会を考えた場合、貨幣の三つの機能を採り入れるだけでは不十分なことがわかってきた。

そこで今回の研究では、貨幣の三つの機能である「交換・決済機能」「価値尺度機能」「価値保蔵機能」に加え、「債務と債権」「譲渡性」「単位」などの概念を採り入れ、お金に対する多様な見方や考え方ができる授業の開発と実践をおこなった。その際に、以下の三点の問題意識をもって取り組み、授業の分析もおこなった。

(1) お金に対する多様な見方や考え方ができれば、金融や経済の仕組みの理解に役立つ

今回は、お金に対する多様な見方や考え方ができれば、銀行の仕組みや役割、日本の通貨の構成比率(9割以上が預金)、お店の人の工夫(利益を上げるため)などについての理解に役立つという仮説のもとに授業を開発した。さらに、金融や経済に対する興味や関心も高まっていく内容にした。

ただ懸念されたのは、多様な見方や考え方を採り入れることで子ども達が混乱するのではないかという点である。

(2) 小学3年生、中学3年生、大学1回生の反応の共通点と相違点

今回の授業は、小学3年生、中学3年生、大学1回生で実践をすることができた。基本的な内容は同じにして、展開の仕方や時数、挿入するトピックはそれぞれの年齢によって変化をさせた。そして、それぞれの年齢の子ども達の授業での反応の共通点と相違点を探ることにした。

ここで懸念されたのは、基本的に同じ内容の授業が年齢の異なる子ども達に受け入れられるのかという点である。

(3) 子ども達が考える場面や実演、実物を採り入れる

小学校及び中学校の新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び⁽¹⁾」が求められている。さらに、大学でもアクティブ・ラーニングの充実が求められている⁽²⁾。そこで今回の授業でも、子ども達が自ら考え、考えたことを友人と交流する場面を採り入れた。さらに、実際に紙が譲渡されていく場面を子ども達と一緒に演じたり、「藩札」の実物を提示したりすることで、子ども達が主体的に取り組み、様々なものと対話し、深い学びができる授業展開にした。

1. 授業の概要

授業では、まず「お金って何ですか？」という発問をした。次に、実物(商品)貨幣と名目(信用)貨幣の代表として、「お米」、「鶏」、「貝」、「金」、「紙」、「粘土板」を取り上げ、これらを分類することでそれぞれのものが持つ特徴を考えながら、交換、債務と債権、譲渡性、希少性といった見方や考え方に触れた。次に、日本の江戸時代の「年貢米」、「金貨・銀貨」、「藩札」、そして現在の紙幣(日本銀行券)と硬貨(補助貨幣)の「現金通貨」、さらには「預金通貨」を取り上げ、前述の見方や考え方をさらに具体的に捉えることができるようにした。最後には、「お金」はものやサービスの価値を計るための「単位(があるもの)」という見方や考え方にも触れた。

以下、小学3年生、中学3年生、大学1回生それぞれの授業の詳細について述べる。

(1) 小学3年生

小学3年生では、小学校学習指導要領解説社会編第3学年及び第4学年の目標と内容(2)「地域の人々の生産や販売について、次のことを見学したり調査したりして調べ、それらの仕事に携わっている人々の工夫を考慮するようにする。」⁽³⁾に基づいた単元の中でお金の授業をおこなった。本単元の主題は仕事である。そこで、単元の導入として子ども達に「どんな仕事かしてみたいか。」と「仕事って、何ですか。」という発問をした。後者の発問に対しては、「がんばった分のお金をもらう。」「お金のためにがんばる。」といった、お金に関する意見が出た。そして、「仕事はお金のためにやるんですか。」という問いを投げ掛けると、子ども達の議論は白熱したが、やがて停滞し結論が出ることはなかった。その原因として、「お金とは何なのか。」についての子ども達の意見がまちまちであったことが挙げられた。そこで、まずはお金について考えることになり、お金の授業をお

こなった。お金の授業終了後は、スーパーマーケットを中心に仕事についての学習を進めた。(表1)

(2) 中学3年生

中学3年生では、中学校学習指導要領解説社会編公民的分野の内容(2)私たちの経済「この大項目は、主として個人、企業及び国や地方公共団体の経済活動を扱い、消費生活を中心に経済活動の意義を理解させること、市場経済の基本的な考え方について理解させること、現代の生産や金融などの仕組みや働きを理解させること、社会における企業の役割と責任について考えさせること、市場の働きにゆだねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たしている役割について考えさせること、財政の役割について考えさせることなどを主なねらいとしている。」⁽⁴⁾の学習終了後にお金の授業をおこなった。そして、この授業の最後に「私たちの経済」で学習したことを振り返る予定であったが、時間の関係で充分におこなうことができなかった。(表2)

(3) 大学1回生

大学1回生では、教職課程における教職に関する科目の中の、教育の意義に関する科目「教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む。)⁽⁵⁾、進路選択に資する各種機会の提供等」の中でお金の授業をおこなった。受講した学生は、人文学部歴史文化学科に所属し、中学校1種社会及び高等学校1種地理歴史の教員免許状の取得を目指している。この授業は、学習指導についての講義の中で、学習指導の見本としておこなった。従って、学生には授業を受けること、そして学習指導の工夫を見つけることという二つの課題があった。授業では、小学3年生と中学3年生では使わなかった債務と債権、譲渡性、希少性などの用語も使用した。さらに、藩札についての詳しい情報も伝えた。(表3)

表1 小学校社会科指導計画

(1)

児童の学習活動 (○予想される児童の反応)	指導上の留意点 (教師の活動)
<p>小単元「お金のひみつ」の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> • お金のひみつである「交換」「貸し借り」「単位」などについて考え、お金を仕事の学習に活かせるようにする。(社会的な思考・判断・表現) <p>2017年1月13日実施 3年1組・3年2組 計66名</p> <p>【本時の目標】(1/3)</p> <ul style="list-style-type: none"> • お金とは何なのかを考えたり、これまでにお金として使われたものの分類をしたりすることで、お金の特徴を考える。(社会的な思考・判断・表現) <p>【導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 前時の振り返りをする。 お金のために仕事をするのか、しないのかを考える。 ○お金のために仕事をする ○人のために仕事をする ○お金と人の両方のために仕事をする <p>【展開】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「お金」とは何なのかを考える。 ○買う時にいるもの(食べ物) ○生きるために必要 ○交換する時に使うもの ○大切なもの ○取引するもの(貸したり借りたりする) • 「お米」「貝殻」「紙」「金」「にわとり」「粘土板」を分類し、それぞれのお金としての特徴を考える。 ○食べられる(お米・にわとり) ○育てられる(お米・にわとり) ○使えるもの、文房具(紙・粘土板) ○光って高価そう、キラキラしている(貝がら・金) ○価値がない(紙・粘土板) ○軽いもの(貝がら・紙) ○人工のもの(紙・粘土板) ○形を変えられる(紙・粘土板) ○かたいもの(貝がら・金) <p>【まとめ】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 次時の学習の予告をする。 「お米」「貝殻」「紙」「金」「にわとり」「粘土板」の分類ついてさらに考えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> • 児童の思考を促すために、スライドとプリントを使用する。 • 「お金」って何ですか？と、児童に問い掛ける。 • 「お米」「貝殻」「紙」「金」「にわとり」「粘土板」を「これまでにお金として使われたもの」として、児童に紹介する。 • 分類をした理由(根拠)を大切にします。 • 分類をすることで、それぞれのものの特徴を考え、お金の働きに迫っていく。 「お米」「にわとり」…食べられる 「貝殻」「金」…めずらしい 「紙」「粘土板」…文字が書ける

2017年1月18日実施

3年1組・3年2組 計66名

【本時の目標】(2/3)

- お金の秘密である「交換を助ける」「貸し借り」「価値を貯める」などについて考える。
(社会的な思考・判断・表現)

児童の学習活動 (○予想される児童の反応)	指導上の留意点 (教師の活動)
<p>【導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 前時の振り返りをする 「お米」「貝殻」「紙」「金」「にわとり」「粘土板」の分類についての児童の意見を振り返る。 <p>【展開】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「お米」「貝殻」「紙」「金」「にわとり」「粘土板」の分類(特徴)からお金のひみつを考える。 〈価値がある〉 「お米」「にわとり」…食べられる(長持ちする) 「貝殻」「金」…めずらしい(長持ちする) どうして「金」や「にわとり」がお金になるのかを考える。⇒交換を助ける 〈価値があまりない〉 「紙」「粘土板」…文字が書ける(長持ちする) どうして「紙」や「粘土板」がお金になるのかを考える。⇒決済の手段 「○○君は、この紙を持っている人に、お米10kgを渡します。」 メソポタミア文明では、粘土板も同じように使われた。 • 江戸時代(の経済制度)から、お金のひみつを考える。 「お米」…年貢米 *税金のようなもの *たくさん獲れないこともある 「金」…金貨・銀貨 *形を変えられる(熱すると溶けて、冷やすと固まる) <p>【まとめ】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 次時の学習の予告をする。 「金貨・銀貨」がどのようにして盗まれていたのかを伝える。 江戸時代(の経済制度)から、さらにお金の秘密を考えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> • まずは、そのものに価値があるものとあまりないものに分類する。 • 実際に「金」や「にわとり」(カード)と「筆箱」を交換したり、「紙」に「お米(カード)」を貸したことを書いた、「借用証書」を、「筆箱」を手に入れるための決済に使ったりして、児童が主体的にお金の特徴について考えられるようにする。 • お金として使われたものは長持ちすること(価値を貯める)や、価値があるものは数の調節がしにくく、価値があまりないものは、数の調節がしやすいことも伝える。 • 「金貨・銀貨」について、当時の人々がどのようにして盗んでいたのかを考えるように伝える。 ⇒削り取っていた

2017年1月20日実施

【本時の目標】(3/3)

3年1組・3年2組 計66名

- 江戸時代と今のお金や金融の仕組みについて考える。

(社会的な思考・判断・表現)

児童の学習活動 (○予想される児童の反応)	指導上の留意点 (教師の活動)
<p>【導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの学習の振り返りをする。 〈価値がある〉 「お米」「にわとり」…食べられる(長持ちする) 「貝殻」「金」…めずらしい(長持ちする) 〈価値があまりない〉 「紙」「粘土板」…文字が書ける(長持ちする) <p>【展開】</p> <ul style="list-style-type: none"> 江戸時代(の経済制度)から、お金のひみつを考える。 「お米」…年貢米 *税金のようなもの *たくさん獲れないこともある 「金」…金貨・銀貨 *形を変えられる(熱すると溶けて、冷やすと固まる) *削り取っていた⇒そのものに価値がある 「紙」…藩札 *藩⇒今の都道府県のようなもの、そこで使えるお金 *金貨や銀貨の不足(財政難)が発行のきっかけ 今のお金について考える 「日本銀行券(紙幣)」…日本銀行発行 国立印刷局 「補助貨幣」…日本政府発行 造幣局 「銀行の仕組み」…預金、貸し付け、信用創造など <p>【まとめ】</p> <ul style="list-style-type: none"> お金のひみつ「単位」について ⇒ものやサービスの価値を計る(mやgと同じ) これまでの学習の振り返りを書く 	<ul style="list-style-type: none"> どうして、「金」や「にわとり」「紙」がお金になるのかということも振り返る。 信用の重要性も確認する。 「金貨・銀貨」については、金や銀の価値より、低い価値で流通させていたことや佐渡島で金、石見銀山で銀が取れていたこと、学校の近くに伏見銀座があったことと両替通りがあることを伝える。 「藩札」について、淀藩の藩札や加納藩の傘札(実物)を提示して、発行されたきっかけ(財政難)を伝える。また、領地の価値が米の石高で示されていたことも伝える。 今のお金の原価や不換紙幣について伝え、その仕組みについて考えられるようにする。 お金の「価値尺度機能」について伝える。 これまでに学習した「お金のひみつ」を「仕事のひみつ」の学習につなげられるようにする。

表2 中学校社会科(公民的分野)指導計画

2017年1月26日実施

3年1組 29名

【本時の目標】

- お金の秘密である「交換を助ける」「決済」「単位」などについて考え、これまでに学習をした金融や経済にさらに興味を持つ。

(社会的事象への関心・意欲・態度)

生徒の学習活動 (○予想される生徒の反応)	指導上の留意点 (教師の活動)
<p>【導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「お金」とは何なのかを考える。 ○生きていくうえで必要な物や欲しい物を手に入れる道具 ○物の価値を表すもの ○地位 <p>【展開】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「お米」「貝殻」「紙」「金」「にわとり」「粘土板」を分類し、それぞれのお金としての特徴を考える。 「お米」「にわとり」…食べられる(価値がある) 「貝殻」「金」…めずらしい(価値がある) 「紙」「粘土板」…文字が書ける(価値があまりない) • 「お米」や「紙」がどのようにしてお金として使われたのかを考える。 「お米」…物々交換から(交換を助ける) 「紙」…貸し借りから(決済の手段) 「○○君は、この紙を持っている人に、お米10kgを渡します」 メソポタミア文明では、粘土板も同じように使われた • 江戸時代の「年貢米」「金貨・銀貨」「藩札」から、お金の秘密を考える。 「年貢米」…お金としても食べ物としても使える 「金貨・銀貨」…重さと表記されている金額の関係について 「藩札」…金貨・銀貨の不足を補うために考えられた <p>【まとめ】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 今のお金について考える 「日本銀行券(紙幣)」と「補助貨幣」について お金の秘密「単位」について • 教科書に載っている「お金」について 日本の通貨の構成比率(現金6.9% 預金93.1%) 	<ul style="list-style-type: none"> • 生徒の思考を促すために、スライドとプリントを使用する。 • 「お金」って何ですか?と、生徒に問い掛ける。 <ul style="list-style-type: none"> • 「お金として使われたもの」ということを意識して分類してもいいことを伝える。 • お金として使われたものは長持ちすること(価値を貯める)や、数の調節のやりやすさについても伝える。 <ul style="list-style-type: none"> • 実際に「お米(カード)」と「筆箱」を交換したり、「紙」に「お米(カード)」を貸したことを書いた、「借用証書」を、「筆箱」を手に入れるための決済に使ったりして、生徒が主体的にお金の秘密について考えられるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> • 「金貨・銀貨」については、荻原重秀と新井白石の経済政策、「藩札」については実物を提示しながら、発行されたきっかけや通用のルールについて伝える。 <ul style="list-style-type: none"> • 最後にこの時間に学習したことと、これまでに学習した金融や経済とのつながりを伝え、さらに金融や経済に興味を持てるようにする。

表3 【教職入門】社会科(公民的分野)指導計画

2017年6月30日実施 人文学部歴史文化学科 1回生18名 【本時の目標】 ・お金の秘密である「貸し借りの記録」「譲渡性(信用)」「単位がある」について考え、金融や経済に興味を持つ。 (社会的事象への関心・意欲・態度)	
学生の学習活動 (○予想される学生の反応)	指導上の留意点 (教師の活動)
【導入】 ・「お金」とは何なのかを考える。 ○物が欲しい時に使うもの ○価値の基準 ○権力(力) 【展開】 ・「お米」「貝殻」「紙」「金」「にわとり」「粘土板」を分類し、それぞれのお金としての特徴を考える。 「お米」「にわとり」…食べられる(実用性) 「貝殻」「金」…めずらしい(希少性) 「紙」「粘土板」…文字が書ける(機能性) ・粘土板に楔形文字で記された内容から、お金の秘密を考える。 「貸し借りの記録」 AさんがBさんに小麦100ブッシェルを借りた(借用証書) 「譲渡性(信用)」 この粘土板の所有者にAさんが小麦100ブッシェルを渡す ・江戸時代の「年貢米」「金貨・銀貨」「藩札」から、お金の秘密を考える。 「年貢米」…お金としても食べ物としても使える 「金貨・銀貨」…重さと表記されている金額の関係について 「藩札」…金貨・銀貨の不足を補うために発行された 【まとめ】 ・今のお金について考える 「日本銀行券(紙幣)」と「補助貨幣」について日本の通貨の構成比率(現金6.9% 預金93.1%)について お金の秘密「単位がある」について	・学生の思考を促すために、スライドとプリントを使用する。 ・「お金」って何ですか?と、学生に問い掛ける。 ・お金という概念を考慮せずに分類するように伝える。 ・学生に粘土板に楔形文字で書かれていた内容を予想するように伝えたり、生徒と一緒に粘土板が次々に人の手に渡っていく(譲渡性の)様子を再現したりして、学生が主体的にお金の秘密について考えられるようにする。 ・「年貢米」については、織田信長が貨幣として使用することを禁じたこと、「金貨・銀貨」については、荻原重秀と新井白石の経済政策、「藩札」については実物を提示しながら、発行されたきっかけや通用のルールについて伝える。 ・最後に、再び「お金」って何ですか?と学生に問い掛けてから、振り返りを書くように伝え、今後の学習で追及したい課題を見つげられるようにする。

2. 授業の分析—問題意識より—

(1) お金に対する多様な見方や考え方ができれば、金融や経済の仕組みの理解に役立つ

今回の授業は、「お金に対する多様な見方や考え方ができれば、金融や経済の仕組みの理解に役立つ」という仮説のもとに開発した。しかし、中学3年生と大学1回生に関しては、時間の関係上「金融や経済の仕組みの理解に役立つ」について、評価できるような授業をおこなうことができなかった。

小学生は「お金のひみつ」の授業後に、スーパーマーケットを中心に仕事についての学習を進めたが、その中でお金を稼ぐことや価格、給料などの費用といったことを含めて考えたり議論をしたりすることができた。その結果、理想論だけではなく現実的な問題についても学習をすることができた。つまり、小学生については「お金に対する多様な見方や考え方ができれば、金融や経済の仕組みの理解に役立つ」ことが明らかになったと言える。

(2) 小学3年生、中学3年生、大学1回生の反応の共通点と相違点

授業では、以下の三つの共通した問いを小学3年生、中学3年生、大学1回生に投げ掛けた。そして、これら三つの問いに対する反応の共通点と相違点を探り、考察をした。

【資料1】 お金って、何ですか？

子ども達の反応を大まかに分類すると、「交換の手段」「決済の手段」「価値の尺度」「価値の保蔵」の貨幣の機能と、「賃金としてのお金」「哲学としてのお金」「物体としてのお金」の7つになった。考察の結果、全体としては年齢が上がるにつれてお金の捉え方が、具体的なものから抽象

的な概念へと変化していくことがわかった。そして、「交換の手段」「決済の手段」「賃金としてのお金」「哲学としてのお金」「物体としてのお金」はどの年齢でも生活体験などを通して認識できること、「価値の尺度」は小学3年生では認識することが難しいこと、「価値の保蔵」はどの年齢でも生活経験だけでは認識することが難しいことがわかった。

つまり、小学3年生では「価値の尺度」を、そしてすべての年齢で「価値の保蔵」や、意見の中にはなかった「債務と債権」などのお金に対する見方や考え方を、授業を通じて子ども達が認識できるようにする必要があることがわかった。

【資料2】 分類をしてください

分類に関しては、年齢的に大きな差はなかった。こちらが求めていた特徴も含めて、様々な捉え方をしていた(敢えて言えば、小学生は目に見える特徴を捉える傾向が強かった)。つまり、この発問はお金の特徴を捉えるための発問としては、どの年齢の子ども達にも有効であることがわかった。

【資料3】 授業の振り返り

今回は、「お金に対する多様な見方や考え方ができたか。」について、小学3年生、中学3年生、大学1回生の授業後の振り返りを記述したものを評価した。評価にはルーブリックを用いた。評価規準は以下のとおりである。

満足できる(A)：お金に対する多様な見方や考え方を抽象的な概念で表現できている おおむね満足できる(B)：お金に対する多様な見方や考え方を具体的に表現できている 努力を要する(C)：お金に対する多様な見方や考え方ができていない

評価をした結果、ほぼ全員が(B)以上の評価であり、その中で(A)の評価は小学生が11名(66名中)、中学生が15名(29名中)、大学生が8名(18名中)であ

った。評価基準として、抽象的な概念で表現することを求めているので、小学生にとっては厳しい評価になったとは言え、11名もの子ども達が(A)の評価を得ていたことは特筆すべきことである。しかも、(A)の評価を得ていた子ども達全員が、いわゆる学力が高いわけではなかった。なぜこういった結果になったのかに関しては、別の機会に検証していきたい。大学生に関しては、(A)の評価を得ている子ども達が少ないように感じるが、「学習指導の工夫を見つける。」という課題と重なっていたことを考えると順当な結果とも言えるのではないだろうか。中学生に関しては、「私たちの経済」の学習終了後ということで、(A)の評価を得ていた子ども達が最も多かったと考えられる。それだけに、「私たちの経済」で学習したことを振り返ることが十分にできなかったことが残念である。

(3) 子ども達が考える場面や実演、実物を採り入れる

今回の実践でも、年齢が上がるにつれて抽象的な思考ができるようになることが再確認できたが、抽象的な思考をするためには具体的な事例が欠かせないことも再確認できた。なぜなら、どの年齢の子ども達も「お金」についての具体的な事例を通じて、「お金」についての抽象的な思考をしていたからである。そして、具体的事例を通じて抽象的な思考をするには、授業の中で子ども達が考える場面や実演、実物を採り入れること、言い換えれば「主体的・対話的で深い学び」やアクティブ・ラーニングの手法を用いる必要があることが、今回の実践からも確認することができた。

さらに、提示する具体的な事例が同じであっても、そこからどんなことを認識するかは個人によって、あるいは年齢によって違ってくことも明らかとなった。授業の中では、こういった認識の個人差を活かして意見の交流をすることで、さらに子ども達がお金に対する多様な見方や考え方ができるようになると考えられる。そして、年齢による認識の差を把握することで、系統的な教育課程の編成ができるようになるとも考えられる。この様に考えれば、教師が個人や年齢による認識の差をしっかりと把握する

ことがとても重要であることがわかった。

3. おわりに

今回、開発をした授業を実践する上で懸念されたことが二点あったが、どちらも特に問題となることなく授業を実践することができた。まず、「多様な見方や考え方を採り入れることで子ども達が混乱するのではないか。」という点については、結果的に新しく取り入れた概念が貨幣の三つの機能と関連するものであったために、大きな混乱を招かなかったと考えられる。次に、「基本的に同じ内容の授業が年齢の異なる子ども達に受け入れられるのか。」という点については、懸念をするどころか、今回の授業はどの年齢の子ども達にも非常に肯定的に受け入れられた。その要因としては、お金という教材が子ども達にとって非常に身近で興味があるものであったこと、お金に対する多様な見方や考え方自体に知的な面白さがあったことが挙げられる。

最後に、今回の取組では様々な成果があったが、根本的な課題として今回の授業に採り入れた「お金」に対する見方や考え方が妥当なものであったかどうかを理論的に検証していかなければならない。なぜなら、お金に対する見方や考え方は多岐にわたり、どういった見方や考え方をするかによって金融や経済、社会に対する見方や考え方も変わってくるからである。さらに、どの年齢の子ども達に、教育課程のどの時点で、どのような目標を設定して「お金」の授業をおこなうのが最も適切なのかを、引き続き理論と実践を通じて検証していく必要があると考えている。

引用文献

- (1) 文部科学省「小学校学習指導要領」2017年3月 p.3
文部科学省「中学校学習指導要領」2017年3月 p.3
- (2) 文部科学省「平成27年度文部科学白書」2015年8月 p.212
- (3) 文部科学省「小学校学習指導要領解説社会編」2008年8月 p.29

- (4) 文部科学省「中学校学習指導要領解説社会編」2008年7月 pp.124～125
(5) 京都学園大学「資格免許課程 履修要綱2017」2017年3月 p.13

参考文献

- フェリックス・マーティン「21世紀の貨幣論」東洋経済新報社 2014年
三橋貴明「日本人が本当は知らないお金の話」株式会社ヒカルランド 2016年
中野剛志「富国と強兵 地政経済学序説」東洋経済新報社 2016年
楊枝嗣朗「歴史の中の貨幣」文真堂 2012年
鹿野嘉昭「藩札の経済学」東洋経済新報社 2011年

資料1 「お金」って、何ですか？

【交換の手段】

〈小学生〉

○食べ物とか交換して手に入れるためのもの ○物々交換より早く手に入る

〈中学生〉

○生きていくうえで必要な物や欲しい物を手に入れるための道具 ○交換の仲立ちをするもの ○物やサービスと交換することのできる紙またはコイン ○物々交換の仲立ちをして便利にしてくれる ○世界、地域で物々交換が行われていた時代に保存性の高いものが必要になり、自由に色々なものに対して使えるように作られた制度による、共通の貨幣

〈大学生〉

○物と物を交換する時に使う、一種の目安になるもの ○物を手に入れるための道具 ○物々交換を効率よく行うために、その代わりに用いられるもの

【決済の手段】

〈小学生〉

○必要なものを買うためのもの ○物を売買するときに必要なもの ○学校のお月謝や習い事のお月謝に使う ○何かを買ったりやってもらったり

するときにいるもの ○大学に入ったりするときに使うもの ○何とか代とかかかったりする(電気代, 水道代, ガス代) ○移動することに使う ○ゲームをやるもの, 病気を治すもの, 家を建てるもの ○かけるもの(宝くじ) ○お金を持っていて, それを渡すとだれか助かるかもしれない(募金) ○取り引きするもの(貸したり借りたりする)

〈中学生〉

○物を買うために必要なもの ○物を買う時に使う ○代金となるもの ○物を買ったりやりとりするのに使うもの ○価値あるものを買うために使うもの ○物の流通時に必要な硬貨, 代償 ○物を買う時, サービスを受ける時などに対価として使われるもの。通貨

〈大学生〉

○何かを買うために必要なもの ○品物を売り買いする時に使うもの ○販売者が売った物に対して消費者がその物に対して支払うもの, 現金

【価値の尺度】

〈小学生〉

○価値があるもの ○100円玉だったら100円分の価値がある, 1000円札だったら1000円分の価値がある

〈中学生〉

○物の価値を表すもの ○物の価値と等しい価値を支払う ○価値が上がり下がりする ○昔は金に交換できるから価値があったもの, 今は政府が価値を保証しているから価値があるもの ○国がつくり出した, これだけの価値があると定められたもの ○それだけで価値があるもの ○価値の尺度を表すもの

〈大学生〉

○価値が世界中の人々みんな同じ ○価値の平均化の道具 ○商品の価値 ○ものの価値 ○その価値は, 政府などによって保証されている

【価値の保蔵】

〈小学生〉

○貯めておくもの

〈中学生〉

○価値を保存するもの

〈大学生〉

○財産

【賃金】

〈小学生〉

○がんばって何かをした人がお礼にもらって、ごはんとかご褒美を買うためのもの ○自分が働いた褒美のようなもの ○がんばって仕事でもらうもの ○会社からもらった給料のこと ○社長からもらうもの ○いいことをしたらお金がもらえる ○努力した分だけ得られる ○何かを手伝ったりするともらえる ○売ったら売った分だけもらえて、大もうけしたりするもの

〈中学生〉

○自分でつくり出すことはできず、仕事をしないともらえない

〈大学生〉

○働いたらもらえるもの

【哲学】

〈小学生〉

○生きていくのにとっても大切なもの ○役に立つもの ○一生の支え ○生活に使うもの ○自分のために使える大切なもの ○自分のためや家族のために使うもの ○アルバイトのえき ○うれしいもの(お金でお花を買ってあげたら、喜ばれるから) ○絶対に持っておかないといけなもの

〈中学生〉

○人にとって大切なもの ○これがなかったら、この世界で生きていくには厳しいもの ○人間が生活を営むのに絶対必要なもの ○「お金」という概念があるからこそ、この世界は成り立っている ○社会を円滑に回すためのもの ○貧富の差を生み出すためのもの ○あればあるほどうれしい ○時には人を悪い方向へ進ませる恐ろしいもの ○たくさんある方がいいもの ○お金が使用されるには、信用がないと無理である ○国とかも動かすことができる ○地位 ○稼げばわいてきて使えば消える、いくらあっても足りない、欲の満たされないもの

〈大学生〉

○生きていくために必要 ○力を示すもの ○世の中を循環させるもの
○幸福を得るための手段 ○経済を動かすもの ○経済に必要

【物体】

〈小学生〉

○金銀銅でできた円の物体 ○お金には金という字があるから金色 ○スクラッチを削る時に使うもの ○金, 銀, 銅, アルミ, 紙 ○金属製で、落とすとチャリンと音がする ○コレクションにするもの ○銀行でお金をつくる

〈中学生〉

○国によって種類は異なることがある

資料2 「お米」「紙」「貝」「金」「鶏」「粘土板」を分類してください

*内は、教師が求めていた特徴

【お米】

〈小学生〉

- ・食べられる
- ・薄い
- ・育てたもの
- ・生き物
- ・種類がある
- ・価値がある
- ・お店で売っている
- ・重い
- ・昔に使っていきそう
- ・分けられる
- ・いつも使う
- ・学校にあるもの
- ・自然からできている

〈中学生〉

・ **食べられる** ・ 自然のもの ・ 数で価値が決められる ・ 税金として使われた ・ 物々交換に近い ・ 生活するのに必要

〈大学生〉

・ **食べられる** ・ 個人で簡単に買える ・ 金銭的は役割を果たすもの

【紙】

〈小学生〉

・ **字を書くのに使う** ・ 文房具 ・ 使える ・ 人工のもの ・ 価値なし ・ 薄い
・ 平べったい ・ 軽い ・ 運びやすい ・ 自然を使っている ・ 動かない ・ 分けられる ・ いつも使う ・ 形を変えられる ・ 学校にあるもの ・ 教育に必要 ・ 生活に使う ・ 食べられる ・ お店で売っている

〈中学生〉

・ **使うもの** ・ 手を加えるもの ・ 希少価値が高い ・ あまり価値はない ・ そのもので価値が決まる ・ 保存できる ・ 流通できる ・ 人々の間で交換されたもの

〈大学生〉

・ **記録するときに使うもの** ・ 実用的 ・ 加工したもの ・ 価値がない ・ 取引されるもの ・ 何かをつくるもの ・ 個人で簡単に買える

【貝】

〈小学生〉

・ **光って高価そう** ・ **キラキラしている** ・ 価値がある ・ 自然を使っている
・ 価値なし ・ 捨てるようなもの ・ お店で売っている ・ 生活に使う ・ 動かない ・ 軽い ・ 昔に使っていきそう ・ 太い ・ 物 ・ 分けられる ・ 硬い ・ 置物として使う

〈中学生〉

・ **なかなか手に入らない** ・ とても価値がある ・ 価値をつけて使用する

・ 数で価値が決められる・自然のもの・保存できる・流通できる人々と商人
人での間で交換されたもの・売るもの

〈大学生〉

・ **きれい**・価値がある・ヤドカ리의家・価値がない・個人で簡単に買える
・ 金銭的は役割を果たすもの・観るもの

【金】

〈小学生〉

・ **光って高価そう**・**キラキラしている**・貴重・価値がある・太い・動かない
・ 重い・いつも使う・硬い・板みたい・人が作ったもの

〈中学生〉

・ **希少価値が高い**・**なかなか手に入らない**・とても価値がある・その
もので価値が決まる・保存できる・流通できる・手を加えるもの・売るもの
・ 人々と商人での間で交換されたもの

〈大学生〉

・ **いつかは枯渇する**・**きれい**・価値がある・世の中で価値が一緒・自然
のもの・鉱物・取引されるもの

【鶏】

〈小学生〉

・ **食べられる**・**家畜**・育てたもの・生き物・価値がる・太い・種類がある
・ お店で売っている・重い・いつも使う・学校にあるもの

〈中学生〉

・ **食べられる**・自然のもの・数で価値が決められる・人々の間で交換
されたもの・物々交換に近い・生活するのに必要

〈大学生〉

・ **食べられる**・生きている・取引されるもの

【粘土板】

〈小学生〉

- ・ 文房具 ・ 使える ・ 価値がある ・ 貴重 ・ 価値なし ・ 薄い ・ 平べったい
- ・ 運びやすい ・ 形を変えられる ・ 硬い ・ 人工のもの ・ 物 ・ お店で売っている ・ 動かない ・ 重い ・ 昔に使ってそう ・ 学校にあるもの ・ 板みたい ・ 家をつくるのに必要

〈中学生〉

- ・ 使うもの ・ 保存できる ・ そのもので価値が決まる ・ あまり価値はない
- ・ 流通できる ・ 手を加えるもの ・ 価値をつけて使用する

〈大学生〉

- ・ 記録するときに使うもの ・ 実用的 ・ いつかは枯渇する ・ 価値がない
- ・ 取引されるもの ・ 自然のもの ・ 加工したもの ・ 何かをつくるもの ・ 個人で簡単に買える

資料3 「満足できる(A)」と評価した振り返り

*下線部は、抽象的な表現と判断したところ

〈小学生〉

- お金は、お金として使えるものならなんでもいいの？お金と何かを交換するとき、その人がその物となら交換してもいいと言ったら、お金として使える。
- お金は紙切れだったという事実を知って、少しショック。昔のお金は粘土板などがあるなんて知らなかった。昔のお金に比べたら、今のお金はあまり価値がない？お金の裏情報などがすごい。
- 昔はお米やニトリもお金だったことに気づいた。紙と粘土板は価値ができてすごいと感じた。昔の人は賢いと感じた。藩札と文字が書ける紙は一緒なの？銀行の仕組みが知れて、楽しいと感じた。お金の意味は初めて知った。結局、先生がカードで買った本のお金はどこに行ったの？数が調節しにくいなら、どうやってお金にしたの？珍しい貝は、どこ

で拾っているの？

- ものやサービスで使えるから、お金は生きるために必要。お金はものの価値の分だけにはつかうもの。お金は信頼する人に貸す。
- 昔のお金は、今のお金と違って自分たちに必要なものを使っていたからびっくりした。昔から16個ものお金が使われていて、価値がないものから価値があるものになったり、価値があるものから価値がないものに変身していて、すごいし、びっくりした。今のお金は僕らが知らない名前がたくさんあったし、びっくりした。金貨が溶けたりして、文字が書けると聞いて、金貨や銀貨は溶けるんだと気づいた。僕らが普段から使っている小銭は、お札のお助けをしているだけだとわかってびっくりした。
- お金は恐ろしすぎる。銀行は悪いのかいいのかわからなくなった。100円玉とかは、何円でつくっているの。銀行へ預けた方がいいの？悪いの？紙幣とか補助貨幣とか以外にそういう感じはないの？
- お金はすごく大切なんだということがわかりました。あと、お金だけでは価値がないということもわかりました。100円や500円などの小銭は、100の方が表だと思っていたのに、まさか反対だと思っていた方が表だったので、すごくびっくりしました。感じたことだけど、印刷されないようにインターネットには赤で線がひいてあったので、インターネットもちゃんとしているんだなと思いました。お金は何ですか？の最後に出てきたm, gと同じという説明を聞いて、本当にそうだなと思いました。
- 昔の人は賢い。日本以外でもこのやりとりはしていた(外国は米の代わりに麦)。珍しい金や貝などで、欲しいものと交換できるようにした。お金って何ですか？と聞かれたら答えるのと説明するのが難しい。
- 日本の今のお金のお札の名前は「紙幣」、小銭は「補助貨幣」という名前だということがわかった。小判のすごい盗み方をすごくよく考えて、昔の人ってめっちゃすごいなあとと思った。最近はネットでお買い物が増えて、お金はどこに行ったのかなあとおもっていたけれど、予想でカードにお金を登録して、それを使って買い物をし、お金は銀行へ入れられ

て、アマゾンだったらアマゾンの会社の人のものになるんだと思う。

- お金そのものは価値がなくて、交換することによって価値がある。お金にはきまりがある(少し)。お金は替えたり偽造したりできる。
- お金ではいろんなやりとりができるとうわかった。昔と今は、お金のやり取りが違とうわかった。お金では、いっぱい買えると思っていたけど、小銭(補助貨幣)の20倍以上のものは、いろんなものを買えるか買えないかわからないとうわかった。昔は今とは全く違うお金とうわかった。

〈中学生〉

- 「お金」についてこんなに考えたことがなかったので、すごく楽しかったです。今までに使われた「お金」にも色々あって、今使われている紙幣や補助貨幣も時と場合によっては価値がないものになるというのを聞いて、確かにそうだなと思って、お金の仕組みを不思議に感じました。
- 今日の授業で、お金の意義について今まで以上に理解することができて良かったです。昔のお金として使われたものを見ることで、お金として使われる基準がわかりました。とてもわかりやすい授業で、お金に対してより興味を持つことができました。今日はありがとうございました。
- 「単位」という考え方がすごく理解しやすくて、私の中でじっくりきました。(小学)3年生の考え方もちゃんとつながっていて(答えに)すごいと思いました。ありがとうございました。
- お金を思い浮かべると、形のあるものだと思ってしまいがちだが、実際にはないものでもお金と示すことがわかった。
- そのものには価値ははにけど、社会の信用によって価値が生まれる。少し難しかったけど、面白くてよくわかりました。
- お金はいろんな場面で利用しているけど、今まで使われてきたお金に値するものは全て長持ちだし、だからこそ貯めておけ、価値があるのだと知ることができました。
- よく考えてみたらすごく複雑な話だと思った。普段何気なく使っているお金には、「お金」という肩書がついているからこそ使い物になる、価

値のあるものになっている、というように解釈したのですが、これで合っていますか？

- 普段は何気なく使っているお金は、形を変えながらもものとサービスとの取引をしていた。今でもその方法は似ており、さらに管理まで行っていると考えるだけでも、とても発展していると感じられる。
- お金の価値は、環境が変わると変わってしまうということがわかりました。
- 教科書や資料集に書いてあったことの復習ができました。よく考えてみると、確かにお金として今まで使われてきたものは全て長期保存が可能であるものだったことに気が付きました。
- 藩札を見て、藩の人が外に行くときに必要な普通のお金の入手はどうするのか(淀藩)が気になったので、調べておきたいと思います。普段のお金が「引換券」だったのを思い出して、お金の先にあるものの価値について考えたいと思います。
- 預貯金が多いから日本経済が安定していると思った。お金の制度がお金を守っていた。
- お金がただ物を買うために使うだけという考え方をしていましたが、お金には長い歴史があり、つくることでもできるというのを改めて実感しました。そのうち、また別のお金も現れるかもしれませんね。
- 今まであまり実感していなかった「お金の価値」について実感することができました。お金の歴史の話が面白かったです。お金には信用が必要だと思いました。
- お金とは普段、身近にあり使っているけれど、このように深く考えたことがなかったので、良い機会となりました。今、私たちがお金と呼んでいるものは紙であり、その紙自体には価値がないけれど、「お金」という言葉が価値があるのかなと思いました。

(大学生)

- 初めてお金について真剣に考えた。あと一枚の用紙に授業のやり方をメ

もしないといけないのに、授業に聞き入ってしまった。それくらい先生の授業は面白くて興味をそそられた。パワーポイントや絵やグラフを使うからわかりやすく頭に入ってくるし、自分で考えたことを周りの考えと比較していくことで、より深く学んでいけた。お金の価値や形は昔から比べるとだいぶ変わっているけど、お金の価値や必要性は変わっていないんだと思った。

- お金は結局、人が作った文字に今はなっていて、よくわかんないなあと思いました。お金という概念は一体何だろうと思いました。自分の中では、まだ定まっていなくて、もう少し深く考えてみたいと思いました。
- 今日はお金について学びました。今日あげたイラストの中で、粘土板が一番初期に使われていたというのは驚きました。時代が変わっていくうちにお金の基準、扱い方、価値が変わっていったことを改めて知りました。その時代にあった基準でお金は生産、流通していったことを感じました。現代では、現金の比率が預金より圧倒的に少ないので、もし預金のシステムトラブルが起きたらどうなるのだろうと思いました。
- お金はものやサービスを得るために必要なもので、それぞれが価値を持っている。また、これらは信頼によって成り立っているのだとわかった。紀元前3500年の粘土板から現在の貨幣に至るまでには、多くの工夫がされ、その時々に応じて使い方を変えてきたことはすごいと思った。
- お金は貸し借りの記録、譲渡性、単位性を現すのに出てきた。物々交換スタートじゃなく、昔にお金のシステムがあるのは知らなかった。
- 物の価値は時代が変化していくにつれて、物の価値も変化していくことがわかった。価値があるものは、数が調節しにくいということは、今も物を調節しようとしてくれる人がいると思うので、その人たちに感謝したいと思った。調節する人がいないと社会がおかしくなるから、ありがたいと思った。昔の人がいたからこそ今があるし、昔の人が積み上げてくれたことによって今の社会があるので、昔の人に感謝したいです。
- 普段、何気なく使っているお金について、根本的なところから考えまし

たが、謎が深まった部分もありました。また、過去の人々のお金の価値観を現代と比べてみると、違う点も見られ、当時とは違うのをより実感しました。私たちが普段使っているお金が奥深いということがよくわかりました。

- お金というものは結局、どういう意味を持つかはわからないが、昔からものやサービスに対しての価値を表すものだとわかった。また、先生が言った通り藩札を考えた人はすごいと思った。

